



# 沖縄タイムス

OKINAWA TIMES

## 美・笑い・映像 島沸かす

### セシル・ティナに声援

第8回沖縄国際映画祭3日目の23日、人気モデルや芸人、アーティストらが華やかに舞台を飾る「ちゅらイギリス UPステージ」がイオンモール沖縄ライカムの特設ステージであった。おののかや県出身の岸本セシル、玉城ティナらが旬のファッションを身にまとい続々と登場。美と笑いと音楽が融合したショーを一目見ようと、建物内外は人だかりで埋め尽くされ、歓声と拍手が絶えなかった。

### ライカムでステージ

快晴で、日差しが照りつける屋外の会場は30分以上前から女子中高生や家族連れでぎっしり。序盤に岸本や玉城、舟山久美子らモデルが姿をみせると大歓声がわいた。プロたちが端正な笑みで優美に歩む最中は、観衆はひととき静まり、視線を注ぎ、立ち止まってターンをすると一気に拍手。ファンたちはそれぞれお気に入りの出演者の名前を記したうちわを高々と掲げて応援した。女芸人渡辺直美がキラのある動きで登場したり、横澤夏子が愛嬌たっぷりの笑顔をふりまいてステージをキープした。

男性芸人が着飾る「イケメンになりたいコ」のアクセントに。美へのため息と笑いが混ざり合った空間となった。総合司会のオリエンタルラジオ藤森慎吾が軽やかなトークで多彩なプログラムを切り盛り。藤森は「盛り上がりすぎますかー。みんなきやわいねー。最高」などと「チャラ男」キヤラ全開で会場の熱気をキープした。

男性芸人が着飾る「イケメンになりたいコ」のアクセントに。美へのため息と笑いが混ざり合った空間となった。総合司会のオリエンタルラジオ藤森慎吾が軽やかなトークで多彩なプログラムを切り盛り。藤森は「盛り上がりすぎますかー。みんなきやわいねー。最高」などと「チャラ男」キヤラ全開で会場の熱気をキープした。



県出身の岸本セシル(右)、玉城ティナの登場にファンは大歓声



カリスマショップ店員ゆうたろう(右)は山崎静代とともに登場

アコースティックギターを抱え唄を披露した三言なつめ



中江裕司審査委員長(左)からトロフィーを授与される倉持治監督

本映画祭で唯一の映像作家7名とその作品7本が23日、桜坂劇場に集い、各作品の上映と最終審査および授賞式が開催された。このうち、沖縄から世界へ賞(グランプリ)を受賞したのは、提案部門(グランプリ)作家志望の男と小学生と本屋で働く娘が疑似家族と化していくひと夏の物語『さんさんご』。こちらは観客の投票で決まる「沖縄県民賞(観客賞)」とのダブル受賞で、現在20歳の倉持治監督は「これからの映画を作り続けていきたいです」とコメント。さらに進グランプリを「龍のゆめ」(北村潤伍監督・24歳)、準々グランプリを『うしろめいけい』(田平一真監督・23歳)が受賞した。また今回から「企画提案(映画脚本)部門」が設けられ、最終選考4作品の中から『おかえりのある場所が沖きてくさい!』と熱く結んだ。

「さんさんご」最優秀賞  
映画コンペ「クリエイターズ・ファクトリー」  
本映画祭で唯一の映像作家7名とその作品7本が23日、桜坂劇場に集い、各作品の上映と最終審査および授賞式が開催された。このうち、沖縄から世界へ賞(グランプリ)を受賞したのは、提案部門(グランプリ)作家志望の男と小学生と本屋で働く娘が疑似家族と化していくひと夏の物語『さんさんご』。こちらは観客の投票で決まる「沖縄県民賞(観客賞)」とのダブル受賞で、現在20歳の倉持治監督は「これからの映画を作り続けていきたいです」とコメント。さらに進グランプリを「龍のゆめ」(北村潤伍監督・24歳)、準々グランプリを『うしろめいけい』(田平一真監督・23歳)が受賞した。また今回から「企画提案(映画脚本)部門」が設けられ、最終選考4作品の中から『おかえりのある場所が沖きてくさい!』と熱く結んだ。



23日、宜野湾市の「宜野湾海開き 芸人ら「コ」ロボ」

ロビカルビーチにて、恒例の海開きと「島ぜんぶでおーきな祭」の村上健志らが参加。会場に集まった子どもたちと一緒に沖縄の海を満喫した。この日はレジャー利用者の安者がビーチ利用者の安全を祈願した後、大崎洋・映画祭実行委員長も加わり、特設ステージでテープカットを敢行。「海開き」を高くに宣言した。初泳ぎには、お笑い一日となった。

# おばあさんタイムス

大城 さとし



波の上うみそら公園 2017年公開予定の「シオン」主演GACKR特設ステージ(那覇市) 映画『カーラヌカン』 Tの相手役として、注目を集めたのは、「ヒロイン公開オーディション」応募総数700人の

好天に恵まれた23日、波の上うみそら公園をはじめとする各会場では、お笑い芸人やミュージシャン、アイドル、パフォーマーらによる多彩なイベントが繰り広げられた。

## 本部町、CMで最優秀

中から東京都の木村涼香さん(写真①)が選ばれた。新体操で国体優勝の経験を持つ木村さんは、「たくさんの方に、ぜひこの映画を見ていただきたいです」と、声をまらせながら喜びを語った。

「JIMOT CM COMPETITION」は、全国各地から「地元の良いところを募集し

## ヒロインに木村涼香さん

### GACKT主演映画「カーラヌカン」

同ステージでは19時15分から、全国のおもしろいスポットを映像で紹介する「おもスポグランプリ」を開催。鹿児島県の「神秘の生物を養殖する館」がグランプリを獲得し、同県は「ダイハツ・キャスト」新CMのロケ地となることも発表された(写真②)。

続いて開催された「JIMOT CM COMPETITION」は、全国各地から「地元の良いところを募集し

吉本興業と一緒にCMを作る恒例のイベント。Eat & Smile 部門は群馬県の「至高のすき焼き」、全国都道府県部門は福井県の「人情の感じられる町おおい」、沖縄県全41市町村部門は本部町の「ピンクのタンクトップ」が、それぞれグランプリに選ばれた(写真③)。

美浜アメリカンビレッジ(北谷町)では、「キッズ」(北谷町)では、

「沖縄コスプレ祭VO L.1」を開催(写真⑤)。会場には日本全国からコスプレイヤーが集合。参加者は「ONE PIECE」や「進撃の巨人」「ドラゴンボール」など思い思いのコスチュームに身を包み、桜 稲垣早希、向清太朗(天津)、R藤本らとともにパレードを楽しんだ。



## 沖縄とエンタメ 那覇でシンポ

23日、本映画祭を記念するシンポジウム「沖縄の未来とエンターテインメントの役割」が、那覇市のANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービューで開催された。写真。

冒頭、島尻安伊子・内閣府特命担当大臣が「本日のシンポジウムをきっかけとして、沖縄の魅力が再認識され、芸能と文化の島である沖縄がさらに活性化されることを期待します」とあいさつ。続いて行われたパネルディスカッション

住みます芸人 会場沸かせる

23日、本映画祭を記念するシンポジウム「沖縄の未来とエンターテインメントの役割」が、那覇市のANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービューで開催された。写真。

エンターテインメント文化の発信をテーマにした第一部では、中村伊知哉・慶大教授、在沖縄の報道関係者らと、お笑い芸人のガレッジセールが登壇。東南アジア各国に在住する「住みますアジア芸人」16人も登場し、現地の言葉を交えたユニークな自己紹介で会場を沸かせた。

シンポでは、「アジアの市場が沖縄にとって大事になってきている」(スベンドリーニ・カクチ)日本外国特派員協会会長、「エンタメ産業を支える人材の育成が重要」(安慶田光男・沖縄県副知事)といった意見が出され、活発な議論が交わされた。



## 外国人記者の目



インドネシア ジョコ・ハリスモヨさん (雑誌「Halo Jepang」)

波の上うみそら公園の特設ステージは、舞台上で繰り広げられるショーやオープンエアに映し出される映画といったさまざまなエンタテインメントが、沖縄の美しい景色に溶け込んでいるのが素晴らしい経験でした。映画の俳優や監督と直接、お話できる機会が多かったのも良かったです。シンポジウムも興味深い内容でした。他に類を見ない魅力を持つ沖縄の地に、エンタテインメントの学校を設立するというのはとてもいい企画だと思います。

## 応援団紹介

にしはら応援団 文教の町・西原町の「にしはら応援団」団長の「さわりん」りん! 今回、初めてのおーきな祭取り組みとして、「JIMOT CM」にも少し出演しているりん! 西原町から島ぜんぶでおーきな祭を盛り上げていくりん!



ひがし応援団 今回、初参加のひがし応援団は、何でも積極的に関わらせていただきました。中でも「JIMOT CM COMPETITION」参加は、団員の心をつなぐ良い機会になりました。今後も積極的に、おーきな祭と東村を盛り上げていきます。



きん応援団 きん応援団では、ポスター掲示やチラシ配布を行い、おーきな祭を応援しています。また、今回の開催に向けて「ネイチャー未来館」では、地域映画の上映会を行いました。おーきな祭を盛り上げ、金武町をもっとPRしていきます。

